

令和3年度岩手県立大学宮古短期大学部 学校推薦型選抜・社会人選抜  
出題の意図等について

【問題の概要】

問題は、テレワークに関する社説（出典：『毎日新聞』社説 2020年7月8日付け）を読み、要約を行うとともに、設問に解答するものであった。

【出題の意図】

問1：新型コロナウイルスの感染拡大によるテレワークの導入に関する文章を理解し、登場するテレワークなどの用語を正しく理解し、文章を要約する能力を有しているかを確認すること。

問2：テレワークのメリットとデメリットを労働者と企業、社会への影響など多面的に考える能力を確認すること。

【模範解答】

問1：新型コロナウイルスの感染拡大で多くの企業でテレワークが導入された。働く人の生活向上などのメリットがある一方、急激な導入による多くの課題も表面化した。勤務時間の管理やウェブ会議などの情報通信技術を利用したコミュニケーションにおける課題などである。これらの解決には、出社と在宅を柔軟に使い分けるなどの工夫、補助金などの公的制度の活用など、労使が知恵を出し合い、協調して解決に取り組むことが求められる。(198字)

問2：情報通信技術を活用したテレワークには多くのメリットとデメリットが存在する。労働者の視点から見れば、テレワークの導入は通勤にかかる時間や労力大きく削減することができ、自由な時間を確保することができる。このことは、子育て世代や介護を必要とする家族がいる労働者にとっては大きな恩恵となるだろう。また、通勤から解放されることは居住地を自由に選択できることにもつながり、家賃などの負担を軽減することや、地元への帰還や地方への移住を可能とすることができる。このことは地方の活性化にとっても移住者の増加など大きな可能を秘めるメリットと考えられる。

企業側から見れば、通勤費に関する支出の削減やオフィスの維持にかかる家賃や光熱費の削減が可能となるメリットがある。

しかし、その一方で企業側ではテレワークの導入に必要な機材や通信環境の整備が必要となる。また、会社外との通信により情報が漏洩する恐れがあり、これは大きな脅威となるだろう。このリスクに対応するための費用等も企業側の負担となる。

さらに、テレワークはテレハラと呼ばれるような新たなハラスメントも生み出している。新しいコミュニケーション方法の導入による様々なストレスの発生は働く人にとって大きなデメリットと言えるだろう。また、テレワークには勤務時間を管理することが難しいのも特徴で、これによる長時間の労働など労働者の負担増加も大きなデメリットだろう。(592文字)